

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-201865

(P2014-201865A)

(43) 公開日 平成26年10月27日(2014.10.27)

(51) Int.Cl.
A41B 15/00 (2006.01)F1
A41B 15/00テーマコード (参考)
3B128

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2013-81795 (P2013-81795)
(22) 出願日 平成25年4月10日 (2013.4.10)(71) 出願人 513089947
丸信テルタック株式会社
大阪府大阪市中央区備後町2丁目4番10号
(71) 出願人 391015627
日本ダム株式会社
福井県福井市清水杉谷町45-300
(74) 代理人 100079234
弁理士 神崎 彰夫
(72) 発明者 木越 大介
大阪府大阪市中央区備後町2丁目4番10号 丸
信テルタック株式会社内
Fターム(参考) 3B128 RA01 RA02

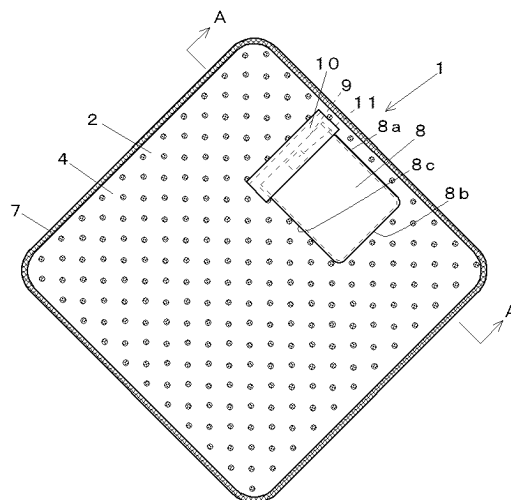
(54) 【発明の名称】 機能性ハンカチ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】ハンカチ本来の保水性・吸水性機能のほかに、例えば、よだれかけ、瓶蓋回し、ナプキンなどとしての付加機能を有し、しかもハンカチ使用後にはコンパクトに纏められる機能性ハンカチを提供する。

【解決手段】機能性ハンカチ1は、吸水性を有するパイル地2およびその裏面に積層した樹脂フィルム層3からなるハンカチ本体4と、該ハンカチ本体4の裏側に配置する薄布とを備え、該薄布の表面に滑り止め層を分散形成し、ハンカチ本体4および薄布を縫着によって一体化する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

吸水性を有するパイル地およびその裏面に積層した樹脂フィルム層からなるハンカチ本体と、該ハンカチ本体の裏側に配置する薄布とを備え、該薄布の表面に滑り止め層を分散形成し、ハンカチ本体および薄布を縫着によって一体化する機能性ハンカチ。

【請求項 2】

薄布はハンカチ本体と同じ平面形状を有し、該薄布およびハンカチ本体の両者の全周を同時に縫着して一体化する請求項 1 記載の機能性ハンカチ。

【請求項 3】

パイル地裏面の樹脂フィルム層はポリウレタン樹脂からなり、且つ薄布表面の滑り止め層はシリコン樹脂からなる請求項 1 記載の機能性ハンカチ。

10

【請求項 4】

吸水性を有するパイル地およびその裏面に設けた樹脂フィルム層からなるハンカチ本体と、該ハンカチ本体の裏側に配置する薄布とを備え、該薄布の表面に滑り止め層を形成し、ハンカチ本体および薄布を縫着によって一体化するとともに、ハンカチ本体に所定の畳み込み機構を縫着することにより、ハンカチ本体を折り重ねてから畳み込み機構によって折り畳み状態を保持させ、ハンカチ全体をコンパクトに纏める機能性ハンカチ。

【請求項 5】

畳み込み機構はハンカチ本体の表面に縫着する伸縮性繊維のシート布からなり、該シート布を部分的に縁縫いしてハンカチ本体に縫い付けることでポケット状の開口部を形成し、ハンカチ本体を小さく折り畳んでからシート布を開口部で裏返すことにより、該シート布内にハンカチ全体をコンパクトに収納する請求項 4 記載の機能性ハンカチ。

20

【請求項 6】

ハンカチ本体において、蓋布をシート布の開口部の近傍に縫い付け、該蓋布がシート布の開口部を覆うように配置することにより、裏返し前のシート布または裏返し後のシート布に所定の美観を付与する請求項 5 記載の機能性ハンカチ。

【請求項 7】

畳み込み機構はハンカチ本体の隅部に縫着するベルト片からなり、該ベルト片の両端部に着脱自在の係止部材を取り付け、ハンカチ本体を細長く折り畳んでからベルト片を巻き付けて係止部材で固定することにより、ハンカチ全体を蝶ネクタイ状に纏める請求項 4 記載の機能性ハンカチ。

30

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、ハンカチ本来の機能のほかに、例えば、よだれかけ、瓶蓋回し、ナプキンなどとしての付加機能を有する機能性ハンカチに関し、さらに全体収束時の状態にデザイン性を付与し、ハンカチ使用後にはコンパクトに纏められる機能性ハンカチに関する。

【背景技術】**【0002】**

ハンカチまたはハンカチーフは、一般に小型で方形の手ふき布であり、従来から各種の繊維製のものが市販されている。ハンカチは、本来、単に手ふき機能を有する方形布であるから、多少の加工を加えて付加価値を高めようとする多くの試みがなされており、最近の提案には、例えば、特開 2010-13741 号、特開 2010-265569 号、特開 2011-231442 号などが存在する。

40

【0003】

特開 2010-13741 号では、環状の吊り紐を挟んでポケット布を縫着したハンカチを提供し、方形のポケット布をハンカチ本体の隅部に載置し、ハンカチ本体の中心に向けて開口部が生じるようにハンカチ本体に縫い付ける。特開 2010-265569 号では、輪ゴム付きのタオルハンカチを提案し、該ハンカチの対角線上に設けたボタン孔の一方に着脱可能なベルトを介して輪ゴムを取り付ける。また、特開 2011-231442

50

号は、よだれかけ兼用のタオルハンカチを提案するものであり、タオルハンカチの対角線上の2偶部にスナップボタンを設け、さらにリボンテープの両端にスナップボタンを設けることにより、該リボンテープを介してタオルハンカチの両偶部をつなぐ。

【0004】

特開2010-13741号のハンカチは、時計やネックレスを吊り紐に通してポケット内に保存でき、該ポケットを裏返して吊り下げると立体的になり、さらにハンカチ本体を丸めてポケット内に収納すると小型化できる。特開2010-265569号のタオルハンカチは、高温または冷たいジュース缶に巻き付けて輪ゴムで固定したり、簡易マスクやよだれかけとして使用でき、さらに2枚を用いてハンカチ人形を組み込むことが可能である。また、特開2011-231442号のタオルハンカチは、スナップボタンの着脱によってよだれかけとよだれふきに兼用できる。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2010-13741号公報

【特許文献2】特開2010-265569号公報

【特許文献3】特開2011-231442号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

20

前記の多機能ハンカチは、いずれも市販のハンカチを機能化するものであるが、タオルハンカチなどのハンカチ本体は素材のままであるから、よだれかけとして用いると幼児のよだれが容易にハンカチ本体の裏面までしみ通って着衣を汚し、ナプキンとして用いても同様の問題を生じる。この多機能ハンカチでは、よだれかけとして幼児の首に掛けると、動きの大きい幼児では食事中によだれかけの位置がずれやすく、ナプキンとして胸前や膝上に掛けても食事中にずれて下に落ちることが多い。また、この種の多機能ハンカチは、よだれや汗で汚れてしまった後の処理が考慮されていないため、汚れた多機能ハンカチをそのままバッグなどに入れるとバッグ内部を汚してしまう。

【0007】

本発明は、従来の多機能ハンカチに関する前記の問題点を改善するために提案されたものであり、本来の吸水性機能のほかに、吸い取った水分がハンカチ裏側までしみ通らず、使用者の胸前や膝上などに掛けた際にずれることが少ない機能性ハンカチを提供することを目的としている。本発明の他の目的は、本来の吸水性機能のほかに、瓶蓋回し、よだれかけ、ナプキンなどの付加機能を有する機能性ハンカチを提供することである。本発明の別の目的は、本来の吸水性機能のほかに、全体の収束時に所定のデザインが付与され、且つハンカチ使用後にコンパクトに纏めることで汚れの伝搬を防ぐ機能性ハンカチを提供することである。

30

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明に係る機能性ハンカチは、吸水性を有するパイル地およびその裏面に積層した樹脂フィルム層からなるハンカチ本体と、該ハンカチ本体の裏側に配置する薄布とを備える。この機能性ハンカチには、薄布の表面に滑り止め層を分散形成し、ハンカチ本体および薄布を縫着によって一体化する。

40

【0009】

前記の機能性ハンカチにおいて、好ましくは、薄布はハンカチ本体と同じ平面形状を有し、該薄布およびハンカチ本体の両者の全周を同時に縫着して一体化する。また、パイル地裏面の樹脂フィルム層はポリウレタン樹脂からなり、且つ薄布表面の滑り止め層はシリコン樹脂からなると好ましい

【0010】

本発明に係る機能性ハンカチでは、ハンカチ本体に所定の畳み込み機構をさらに縫着し

50

てもよい。この畳み込み機構によって、ハンカチ本体を折り畳んでから折り畳み状態を保持させ、ハンカチ全体をコンパクトに纏めることが可能である。

【 0 0 1 1 】

前記の機能性ハンカチにおいて、畳み込み機構はハンカチ本体の表面に縫着する伸縮性繊維のシート布からなると好ましく、該シート布を部分的に縁縫いしてハンカチ本体に縫い付けることでポケット状の開口部を形成し、ハンカチ本体を小さく折り畳んでからシート布を開口部で裏返すことにより、該シート布内にハンカチ全体をコンパクトに収納する。この際に、ハンカチ本体において、蓋布をシート布の開口部の近傍に縫い付け、該蓋布がシート布の開口部を覆うように配置することにより、裏返し前のシート布または裏返し後のシート布に所定の美観を付与することが可能である。また、畳み込み機構はハンカチ本体の隅部に縫着するベルト片からなってもよく、該ベルト片の両端部に着脱自在の係止部材を取り付け、ハンカチ本体を細長く折り畳んでからベルト片を巻き付けて係止部材で固定することにより、ハンカチ全体を蝶ネクタイ状に纏める。

10

【 発明の効果 】

【 0 0 1 2 】

本発明に係る機能性ハンカチは、表面がパイル地であるので肌触りが良く、ハンカチ本来の機能である手拭きや汗拭きとして用いることができる。本発明の機能性ハンカチでは、薄布に樹脂製の滑り止め層が分散形成され、且つ該薄布とパイル地であるハンカチ本体とが分離しているので、裏側に滑り止め層が存在してもハンカチが使用時にごわつくことが少ない。本発明の機能性ハンカチは、パイル地が吸い取った水分を裏面の樹脂フィルム層で阻止し、下側の薄布までしみ通すことがないため、この機能性ハンカチをよだれかけやナプキンとして用いると、パイル地に水に浸透しても幼児の着衣などを濡らすことが殆どない。

20

【 0 0 1 3 】

本発明に係る機能性ハンカチは、その裏側に分散形成した滑り止め層が存在することにより、該ハンカチを使用者の胸前や膝上などに掛けた際にずれることが少なく、幼児の胸前に置く場合には着衣の衿口に差し込んだり、市販のクリップで着衣に固定するだけでずり落ちることがない。また、この機能性ハンカチをねじ蓋付きの瓶に被せると、裏側の滑り止め層によってねじ蓋が回しやすくなり、握力が弱い女性や子供用の瓶蓋回しとしての機能も有する。

30

【 0 0 1 4 】

本発明に係る機能性ハンカチは、全体に小さく折り畳んでから、伸縮性繊維製のシート布を開口部で裏返すと、該シート布内にハンカチ全体を畳み込んでコンパクトに収納できて嵩張らない。本発明の機能性ハンカチは、使用後で汚れていても、該シート布内に畳み込んでしまうと、そのままバッグなどに入れてもバッグ内部を汚すことがなく、ハンカチの汚れの伝搬を防ぐことができる。さらに、本発明の機能性ハンカチは、全体収束時の状態にデザイン性を付与でき、適宜の装飾を施してキャラクター商品化したり、蝶ネクタイなどの特定の形状に纏めて装飾的な効果を付与できる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 5 】

40

【 図 1 】 本発明に係る機能性ハンカチを示す平面図である。

【 図 2 】 図 1 の機能性ハンカチの裏面を示す平面図である。

【 図 3 】 図 1 の機能性ハンカチを A - A 線に沿って部分的に切断した概略断面図である。

【 図 4 】 機能性ハンカチを折り畳んだ状態を示すシート布の概略横断面図である。

【 図 5 】 図 1 の機能性ハンカチをシート布に収納した状態を示す斜視図である。

【 図 6 】 機能性ハンカチの変形例を示す平面図である。

【 図 7 】 図 6 の機能性ハンカチの裏面を示す平面図である。

【 図 8 】 図 6 の機能性ハンカチを B - B 線に沿って部分的に切断した概略断面図である。

【 図 9 】 図 6 の機能性ハンカチをシート布に収納した状態を示す斜視図である。

【 図 1 0 】 機能性ハンカチの別の変形例を示す平面図である。

50

【図 1 1】ベルト片を上向きにした図 1 0 の機能性ハンカチの裏面を示す平面図である。

【図 1 2】図 1 0 の機能性ハンカチを折り畳んで拘束した状態を示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0016】

図 1 は本発明に係る機能性ハンカチ 1 の一例を示し、該ハンカチにおいて、ハンカチ本体 4 は、表面のパイル地 2 および裏面の樹脂フィルム層 3 からなる（図 3 参照）。ハンカチ本体 4 は、通常、一般的な方形や矩形であり、よだれかけやナプキンの用途が主であるならば大きめに裁断すればよく、その四隅を面取りすることも可能である。ハンカチ本体 4 において、表側のパイル地 2 は、比較的細い綿のパイル糸を緻密に織った片面タオル組織などの縦パイル組織や横パイル組織または特殊パイル織で構成する。パイル地 2 に吸水性を付与するために、例えば、異形断面などのパイル糸を用いたり、パイル糸を酸性酵素法や適宜の吸水剤などによって吸水処理を施してもよい。

10

【0017】

パイル地 2 は、その表面に適宜の図柄をプリントして美観を高める。パイル地 2 には、図 3 に示すように、その裏面に薄い樹脂フィルム層 3 が積層され、該フィルム層はポリウレタン、ポリエステル、ポリオレフィン樹脂製などであり、特にポリウレタン樹脂製であるとパイル地 2 の畳み易さと柔軟性を維持できるので好ましい。樹脂フィルム層 3 は、ローコーティング、ディッピングまたは全面スクリーン印刷などによってパイル地 2 の裏面に形成する。

【0018】

20

機能性ハンカチ 1 では、ハンカチ本体 4 の裏側に薄布 5 を配置し、該薄布は綿、麻、絹などの天然繊維または合成繊維のいずれでもよい。薄布 5 の表面には滑り止め層 6 を分散形成し、該滑り止め層は摩擦抵抗が高い樹脂製であればよく、特に摩擦抵抗が高くて柔軟なシリコン樹脂であると好ましい。滑り止め層 6 の平面形状は、図 2 のような五角形の星の全面分散、水玉模様、縞模様、格子模様などのいずれでもよく、表面積が小さい割に摩擦抵抗を高くするには五角形の星形を用いると好ましい。滑り止め層 6 は、スクリーン印刷、凸版印刷、平版印刷、オフセット印刷などによって、図 2 に例示のように全面に均等分散させる。薄布 5 は、ハンカチ本体 4 と同じ平面形状を有し、該薄布およびハンカチ本体 4 を重合し、その全周をオーバーロックミシンなどによって縁取りすると、縁縫い部 7 によってハンカチ本体 4 と一体化する。

30

【0019】

機能性ハンカチ 1 について、ハンカチ本体 4 をコンパクトに纏めるために、畳み込み機構をハンカチ本体 4 つまりパイル地 2 に縫い付け、この畳み込み機構は、部分縁縫いして開口部を形成したポケット状のシート布 8（図 1）、21（図 6）またはベルト片 35（図 10）などであると好ましい。シート布 8、21 は、パイル地 2 の表面に全体を縫い付けても、底布を用いてハンカチ本体 4 の周縁から突出させて取り付けてもよい。ベルト片 35 は、図 10 のようにハンカチ本体 4 から外向きに配置しても、不使用時にはパイル地の表面または薄布の裏面に剥離可能に接着できる態様であってもよい。

【0020】

この畳み込み機構がポケット状のシート布 8、21 である場合には、裏返しが必要であるので伸縮性の高い布またはプラスチック素材などからなる。このシート布は、ハンカチ本体 4 の肌触りと柔軟性を損なわない点から伸縮性繊維製であると好ましく、例えば、ポリウレタン系系や巻縮加工系などのニット生地を用いる。このシート布は、パイル地 2 と同一または異なる色に着色され、該シート布が裏返しされるとパイル地の部分が外に出るので、裏返し時の模様や図柄を統一させるために有色の底布 20（図 8）をパイル布上に配置してもよい。

40

【0021】

前記のシート布は、その平面形状が矩形であれば、三側縁をハンカチ本体に縫い付けて非縫い付けの一边でポケット状の開口部 9（図 1）を形成し、三角形であれば非縫い付けの一边、五角形以上であれば二辺で開口部を形成すればよい。シート布が、図 6 のような

50

直線状の割線を有する優孤状であれば、該優孤の円周を縫い付けて、割線部分が開いたポケット状の開口部を形成し、この際に優孤の中心角は200～250度である。所望に応じて、ハンカチ本体には、矩形または優孤状の蓋布10, 22をシート布の開口部の近傍に配置し、その一侧縁または円周を縫い付けて蓋布が該シート布の開口部を覆うと好ましい。この蓋布は、シート布8, 21と同じ伸縮性繊維製であっても異なってもよい。この蓋布の裏面とシート布の前表面に面ファスナやスナップを縫い付けると、該蓋体を開閉可能にできる。

【0022】

一方、畳み込み機構として、ベルト片35(図10)をパイル地の隅部に縫着してもよい。ベルト片35は、パイル地32と共布または別の布地であり、デザイン的には適当な装飾を施した別布であれば好ましい。このベルト片の両端部には、その表裏に分けてスナップや面ファスナなどの係止部材を取り付ける。このベルト片は、機能性ハンカチを対角線方向に巻き込んだ際に、少なくともその周囲に巻き付けて係止部材で固定できる長さを有することを要する。

【0023】

機能性ハンカチ1は、表面がパイル地2であるので肌触りが良くて柔軟であり、該パイル地が高い吸水性を有するので、ハンカチ本来の機能である手拭きや汗拭きとして用いることができる。パイル地2が吸い取った水分は、裏面の樹脂フィルム層3で阻止され、裏の薄布5までしみ通ることはないため、機能性ハンカチ1をよだれかけやナブキンとして用いると、パイル地2に水に浸透しても幼児などの使用者の着衣などを濡らすことがなく、このハンカチを裏返して畳むと他のものを汚すこともない。

【0024】

機能性ハンカチ1の裏側には、薄布5に分散形成した滑り止め層6が存在するから、該ハンカチを使用者の胸前や膝上などに掛けた際にずれることが少なく、幼児の胸前に置く場合には、着衣の衿口に差し込んだり、紐付きの市販のクリップ(図示しない)で固定するだけでよい。また、ハンカチ1をねじ蓋付きの瓶(図示しない)に被せると、裏側の滑り止め層6によってねじ蓋が回しやすくなり、握力が弱い女性や子供用の瓶蓋回しとしての機能も有する。機能性ハンカチ1では、薄布5に滑り止め層が分散形成され、且つ該薄布とハンカチ本体4とが分離しているので、該ハンカチを折り畳みやすく、使用時にごわつくことも少ない。

【0025】

機能性ハンカチ1を畳む際には、例えば、ニット生地 of シート布8であると、ハンカチ本体4をシート布8の裏側で小さく折り畳んでから、該シート布を裏返し、さらに蓋布10を裏返して面ファスナ11で留めればよい(図5参照)。また、シート布21であると、ハンカチ本体16を底布20の裏側で小さく折り畳んでから、蓋布22を裏返しついでシート布21を裏返すと、該シート布は優孤状であるので裏返し後にずり上がることは少ない。一方、機能性ハンカチ30では、図11の図番30aから30fに従って折り畳み、折り畳み後のハンカチの中央部を絞ってから、その個所にベルト片35を巻き付けてスナップ36, 36で留め、図12のようにハンカチ全体を蝶ネクタイ状に纏める。

【0026】

機能性ハンカチ1は、シート布8, 21内にハンカチ全体を畳み込み、さらに手によって全体を多少整形すると、デザイン的に優れた商品となる。このシート布の下側に同系色の底布20を配置しておく、裏返し後にシート布21、蓋布22、底布20が表側になってデザインに統一感が生じるので好ましい。例えば、シート布21を含む円形の底布20(図8)であれば、裏返し後に整形すると、赤や青の丸いリングのような形状になり、シート布21の裏面や底布20に目鼻などを印刷しておく、キャラクター商品にもできる(図9参照)。

【0027】

機能性ハンカチ1は、図5、図9や図12のように畳み込んでいるとコンパクトになって高張らず、バッグなどに入れて持参や保管する際に便利である。機能性ハンカチ1は、

10

20

30

40

50

使用後で汚れていても、図 5 や図 9 のようにシート布 8 , 2 1 内に畳み込んだり、図 1 2 でハンカチ本体を裏向きに置くと、汚れたパイル地が内部になってしまうので、そのままバッグなどに入れてもバッグ内部を汚すことがない。

【実施例 1】

【0028】

次に、本発明を実施例に基づいて説明するが、本発明は実施例に限定されるものではない。図 1 に示す機能性ハンカチ 1 において、ハンカチ本体 4 は、表面のパイル地 2 および裏面の樹脂フィルム層 3 からなる（図 3 参照）。ハンカチ本体 4 では、その表面に吸水処理を施したパイル地 2 を配置し、該ハンカチ本体は四隅を面取りされている。表面に適宜の図柄をプリントしたパイル地 2 は、比較的細いパイル糸を緻密に織った片面タオル組織などの縦パイル組織で構成する。

10

【0029】

パイル地 2 には、図 3 に示すように、その裏面に薄い樹脂フィルム層 3 が積層され、該フィルム層はパイル地 2 の柔軟性を維持できるポリウレタン樹脂製であると好ましい。フィルム層 3 は、例えば、全面スクリーン印刷によって形成する。ハンカチ本体 4 は、表面のパイル地 2 および裏面の樹脂フィルム層 3 からなり、該ハンカチ本体の裏側に綿製の薄布 5 を配置する。

【0030】

薄布 5 の表面には滑り止め層 6 を分散形成し、該滑り止め層は摩擦抵抗が比較的高いシリコン樹脂製であると好ましい。滑り止め層 6 は、例えば、スクリーン印刷によって、図 2 に例示のように五角形の星を全面にほぼ均等に分散させたように形成すると、機能性ハンカチ 1 の柔軟性を損なうことが少ない。薄布 5 は、ハンカチ本体 4 と同じ平面形状を有し、該薄布およびハンカチ本体 4 の全周を縁取りし、縁縫い部 7 によってハンカチ本体 4 と一体化させる。

20

【0031】

ハンカチ本体 4 であるパイル地 2 の表面には、畳み込み機構として矩形状のシート布 8 を縫着する。シート布 8 は、伸縮性の高い赤色ニット生地などの伸縮性繊維からなり、該シート布の三側縁 8 a、8 b、8 c をハンカチ本体 4 に縫い付けることにより、非縫い付けの一端辺でポケット状の開口部 9 を形成する。さらに、ハンカチ本体 4 には、細長い蓋布 10 をシート布 8 の開口部 9 の近傍に平行配置し、その一侧縁を縫い付けて蓋布 10 がシート布 8 の開口部 9 を覆う。蓋布 10 は、シート布 8 と同じ赤色ニット生地であり、該蓋布の裏面中央とシート布 8 の前表面中央に縫い付けた面ファスナ 11 によって蓋開閉自在にする。

30

【0032】

シート布 8 は、ハンカチ本体 4 の表面において任意の大きさと位置に設定できるけれども、図 4 に示す折り畳み状態があまり嵩張らない寸法に定めることが望ましい。シート布 8 の側縁 8 a は、主として美観の点から、ハンカチ本体 4 の側縁から僅かに離隔するように配置する。例えば、シート布 8 の長さはハンカチ本体 4 の一辺の長さの $1/3$ より多少長めであり、その辺のほぼ中間の位置を占める。また、シート布 8 の幅は、ハンカチ本体 4 の側縁からの離隔距離を除いて、ハンカチ本体 4 の一辺の長さの約 $1/3$ である。

40

【0033】

機能性ハンカチ 1 は、表面がパイル地 2 であるので、ハンカチ本来の機能である手拭きや汗拭きとして用いることができ、パイル地 2 が吸い取った水分は裏面の樹脂フィルム層 3 で阻止され、薄布 5 までしみ通ることはない。このため、機能性ハンカチ 1 をよだれかけやナプキンとして用いると、パイル地 2 に水に浸透しても使用者の着衣などを濡らすことがない。機能性ハンカチ 1 の裏側には、薄布 5 に分散形成した滑り止め層 6 が存在するから、該ハンカチを使用者の胸前や膝上などに掛けた際にずれることが少なく、幼児の胸前に置く場合には、市販のクリップ（図示しない）で着衣に固定するだけでよい。また、ハンカチ 1 をねじ蓋付きの瓶（図示しない）に被せると、裏側の滑り止め層 6 によってねじ蓋が回しやすくなり、瓶蓋回しとしての機能も有する。

50

【 0 0 3 4 】

機能性ハンカチ 1 を置く際には、その裏面（図 2）において、通常、一点鎖線 2 a , 2 a で谷折りし、この谷折りをさらに一点鎖線 2 b , 2 b , 2 b で折り込んでシート布 8 の裏側で小さく折り畳む（図 4 参照）。次に、伸縮性繊維製のシート布 8 を開口部 9 で裏返す。さらに蓋布 10 を裏返して開口部 9 に差し込み、該蓋布を面ファスナ 11 で留めると、シート布 8 内にハンカチ全体を畳み込んでコンパクトに収納できる（図 5 参照）。

【 0 0 3 5 】

機能性ハンカチ 1 は、図 5 のように畳み込んでいるとコンパクトになって嵩張らない。機能性ハンカチ 1 は、使用後で汚れていても、図 5 のようにシート布 8 内に畳み込んでしまうと、そのままバッグなどに入れてもバッグ内部を汚すことがなく、ハンカチの汚れが他のものに伝搬することを防ぐことができる。

10

【 実施例 2 】

【 0 0 3 6 】

図 6 は本発明の変形例を示し、図 6 の機能性ハンカチ 12 には、実施例 1 と同様のハンカチ本体を用いる。このハンカチ本体は、実施例 1 と表面図柄 15 が異なるパイル地 16 およびその裏面に積層した樹脂フィルム層 17（図 8）を有し、該ハンカチ本体の裏側において滑り止め層付きの薄布 18（図 7）を配置し、該薄布を全周囲の縁縫い部 19 によってハンカチ本体と一体化させる。

【 0 0 3 7 】

パイル地 16 の表面には、その隅部の近傍において、図 8 に示すように、伸縮性の高い赤色ニット生地 of 円形の底布 20 を配置し、さらに該底布と同素材で同直径である切欠き円形のシート布 21 およびほぼ半円形の蓋布 22 を重ね合わせ、該底布の全円周を縁縫いして 3 枚同時にパイル地 16 に縫着する。シート布 21 は、直線状の割線 23 を有する優弧であって、円弧の中心角は 200 ~ 250 度であり、該割線がパイル地 16 の隅部に向くように配置する。また、半円形または優弧状の蓋布 22 は、シート布 21 の上に重ね、該蓋布の割線 24 はシート布 21 の割線 23 と平行である。シート布 21 は、その円弧部が縁縫いされるので割線 23 の個所が開口部となり、該開口部を半円形の蓋布 22 が覆っている。

20

【 0 0 3 8 】

シート布 21 を含む円形の底布 20 は、パイル地 16 の表面において任意の大きさと位置に設定できるけれども、図 9 に示す折り畳み収納状態が球形に近い形状にできることが望ましい。この底布 20 は、パイル地 16 の隅部において周囲の縁縫い部 19 から少し離して配置し、該底布の直径はパイル地 16 の一辺の長さの 1 / 3 程度に定める。

30

【 0 0 3 9 】

機能性ハンカチ 12 を置く際には、その裏面（図 7）において、通常、一点鎖線 12 a , 12 a で谷折りし、この谷折りをさらに 2 点鎖線 12 b , 12 b で折り込んで底布 20 の裏側で小さく折り畳んでから、蓋布 22 を裏返し、さらにシート布 21 を開口部で裏返すと、割線 23 が蓋布 22 の上方に位置する。蓋布 22、シート布 21 および底布 20 内にハンカチ全体が畳み込まれ、全体が丸くなるように整形すると、シート布 21 内に縫い付けた飾り 25 が表に出て、全体が赤くて丸いリングのような形状でコンパクトに収納できる（図 9 参照）。

40

【 0 0 4 0 】

機能性ハンカチ 12 は、図 9 のようにほぼ球形に畳み込んでいるとコンパクトで嵩張らず、適宜の装飾を施せばキャラクター商品化が可能である。機能性ハンカチ 12 は、使用後で汚れていても、図 9 のように蓋布 22 とシート布 21 で畳み込んでしまうと、そのままバッグなどに入れてもバッグ内部を汚すことがない。

【 実施例 3 】

【 0 0 4 1 】

図 10 は本発明のさらに別の変形例を示し、図 10 の機能性ハンカチ 30 には、実施例 1 と同様のハンカチ本体を用いる。このハンカチ本体は、実施例 1 と同様の水玉模様など

50

の表面図柄 3 1 をプリントしたパイル地 3 2 およびその裏面に積層した樹脂フィルム層 (図示しない) を有し、該ハンカチ本体の裏側において滑り止め層付きの薄布 3 3 (図 1 1) を配置し、該薄布を全周囲の縁縫い部 3 4 によってハンカチ本体と一体化させる。

【 0 0 4 2 】

機能性ハンカチ 3 0 において、畳み込み機構はパイル地 3 2 の隅部に縫着するベルト片 3 5 であり、該ベルト片はパイル地 3 2 から外向きに配置する。ベルト片 3 5 は、パイル地 3 2 と共布または別の布地であり、該ベルト片の両端部には、その表裏に分けてスナップ 3 6 , 3 6 を取り付ける。ベルト片 3 5 の長さは、ハンカチ 3 0 を対角線方向に巻き込んだ際に、その周囲に巻き付けてスナップ 3 6 , 3 6 で固定できることを要する。

【 0 0 4 3 】

機能性ハンカチ 3 0 を畳む際には、該ハンカチを裏返し、図 1 1 のようにベルト片 3 5 を上向きにしてから、まず一点鎖線 3 0 a で谷折りしてから二点鎖線 3 0 b で山折りする。次に、図 1 1 の一点鎖線 3 0 c で谷折りしてから二点鎖線 3 0 d で山折りする。さらに、図 1 1 の一点鎖線 3 0 e と 3 0 f で山折りして左右を折り畳み、全体を横長の矩形状にする。この折り畳んだハンカチを表へ返し、その折り畳み中央部 3 2 a を真ん中が膨らむように絞ってから、その個所にベルト片 3 5 を巻き付けてスナップ 3 6 , 3 6 で留めると、図 1 2 に示すようにハンカチ全体を蝶ネクタイ状に纏めることができる。

【 0 0 4 4 】

機能性ハンカチ 3 0 は、図 1 2 のように球形に畳み込んでいるとコンパクトで嵩張らず、蝶ネクタイ状に纏めると装飾的な効果を有する。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 5 】

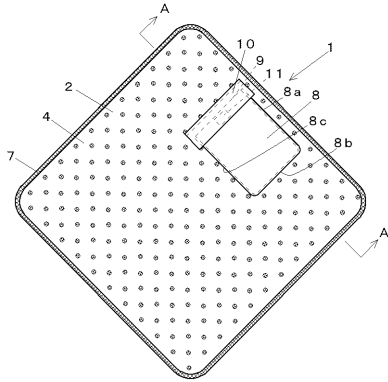
- 1 機能性ハンカチ
- 2 パイル地
- 3 樹脂フィルム層
- 4 ハンカチ本体
- 5 薄布
- 6 滑り止め層
- 8 シート布
- 9 開口部
- 1 0 蓋布

10

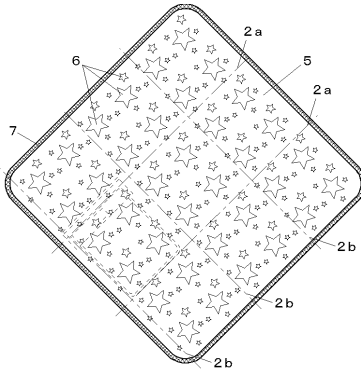
20

30

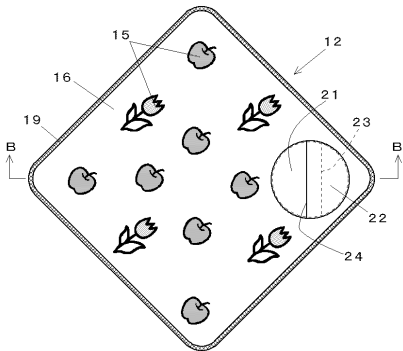
【図 1】



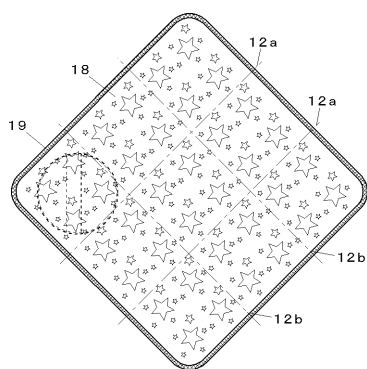
【図 2】



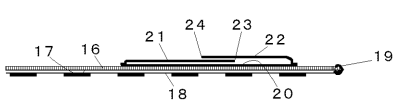
【図 6】



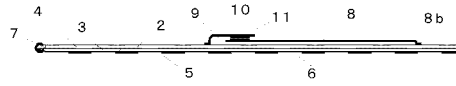
【図 7】



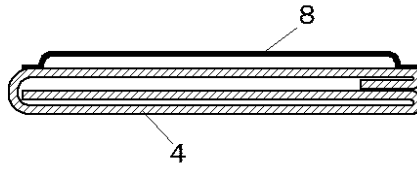
【図 8】



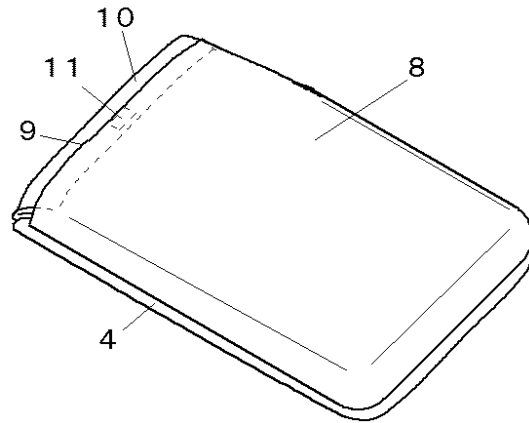
【図 3】



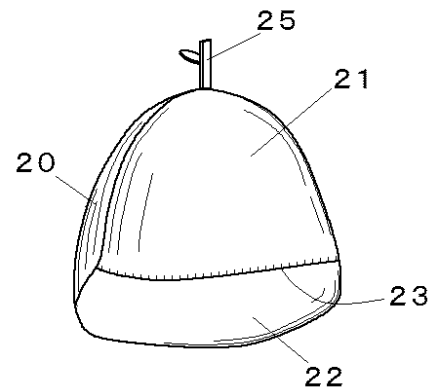
【図 4】



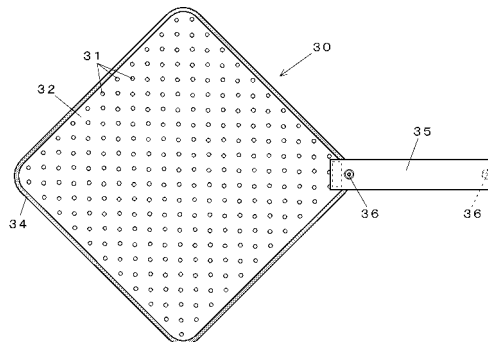
【図 5】



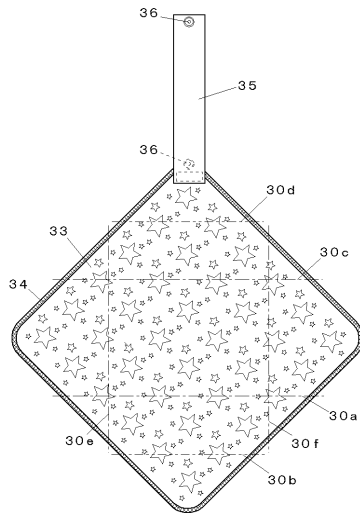
【図 9】



【図 10】



【図 1 1】



【図 1 2】

